

白井市 市長の専決処分焦点

北総線値下げ予算案廃案

北総線の運賃引き下げや他の沿線自治体と、北総線の運賃を約5%下げた。北総線は7月17日か原資の負担を巡って、千葉県白井市と市議会の間で混乱が続いている。市は3月、6月の議会に予算案を提出したが否決。9月議会に3度目の提出をしたが、議会の空転で廃案となった。横山久雅子市長が週明けに専決処分をするかどうかが焦点になっている。

北総線の値下げを巡る経緯

2009年
 11月上旬・千葉県と沿線6市2村（当時）、北総鉄道、京成電鉄が約5%の値下げで基本合意。必要経費の分担を決める
 11月25日・白井市議会、合意書への同意の見合わせを求める決議を可決
 11月27日・白井市の横山久雅子市長、合意書に調印

2010年
 3月29日・白井市議会、10年度予算案から値下げ関連経費（約2588万円）を削除
 6月4日・横山市長、6月議会に値下げ関連予算案（同額）を提出
 6月29日・白井市議会、予算案を否決
 9月28日・横山市長、9月議会に値下げ関連予算案（約2363万円）を提出。審議未了で廃案

や他の沿線自治体と、北総線の運賃を約5%下げた。北総線は7月17日か原資を負ら値下げしており、来年

議会空転、調整不足の声

3月末までに必要な原資のうち、白井市の負担分である約2363万円を予算案として提出した。すでに他の自治体は原資の一部を払っている。

北総側は「負担しなければ、運賃を値下げ前の水準に戻さざるを得ない」としており、白井市は追い込まれた格好だった。

3月、6月議会では鉄道運賃の値下げのため公金を使うことへの反対が相次ぎ、否決された。

9月議会では賛成派とみられる議長が「議案への賛成討論をしたい」と申し出て議長席を降りた。仮議長の選出を巡って審議はしばしば中断。議長不在のまま29日午前0時を迎え、議会は流会。予算案も廃案となった。

関係者によると、市側は閉会間際に提出することで時間切れによる廃案を狙ったフシがある。地方自治法は議会が必要ない。合意を推進する関係者がからも「問題の長期化を招いた一因は市長の調整不足」との声が出る。

▼専決処分 議会の議決が必要な事柄を首長が自分の判断で決定すること。地方自治法の規定で、議員数が足りず議会が成立しない場合や議会を招集する時間がない場合などが対象。専決処分した事柄は議会に報告する必要があるが、議会の承認がなくても決定内容に影響はない。

千葉